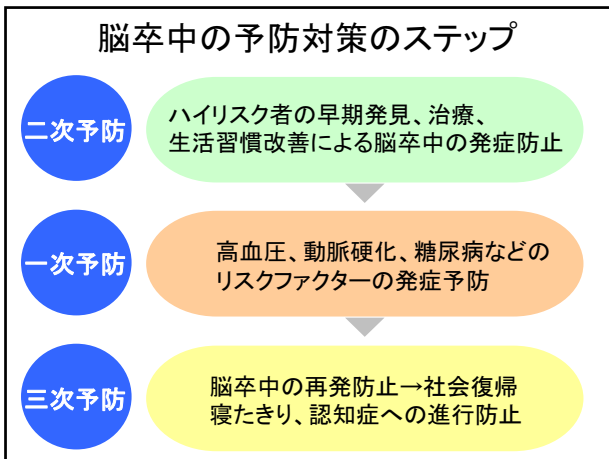
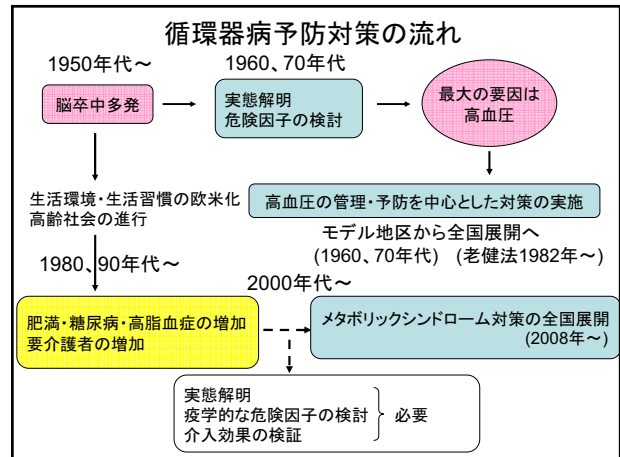


- 1.主催者名:大阪府健康医療部保健医療室地域保健感染症課、吹田保健所(2010年2月12日)
- 2.研修会:生活習慣予防対策(循環器病対策)
- 3.講演タイトル:効果的なポピュレーションアプローチとは～コミュニティ主体の生活習慣病予防～
- 4.講師名:北村明彦

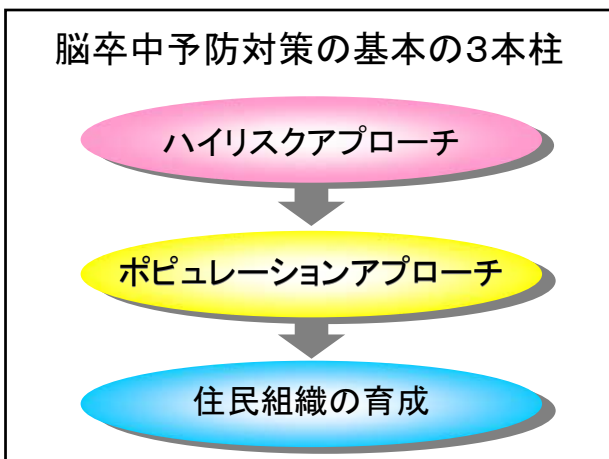
2010年新春生活習慣病対策シンポジウム (2010.2.12)

効果的なポピュレーションアプローチとは
～コミュニティ主体の生活習慣病予防～
生活習慣病予防対策(循環器病対策)

大阪府立健康科学センター
北村 明彦

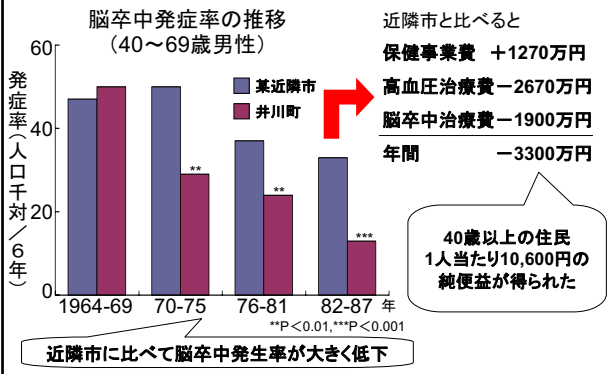


- 2次予防対策のステップ
- (1)脳卒中、虚血性心疾患の実態調査
 - (2)Risk Factorの解明
 - ・Cross-Sectional Study(断面調査)
 - ・Retrospective Study(後向き調査)
 - ・Prospective Study(前向き調査)
 - (3)High-Risk者の把握
 - (4)High-Risk者の対策



- 秋田県井川町における血圧管理対策
ハイリスクアプローチが中心
- 【健診】
- ・循環器健診(集団方式)の悉皆的な実施 休日・夜間検診、未受診者への個別勧奨等
- 【事後指導】
- ・結果説明会の開催
 - ・高血圧者に対する生活指導 (家庭訪問・健康教室)
 - ・未治療者を治療ルートにのせる

秋田県井川町における脳卒中予防対策の効果

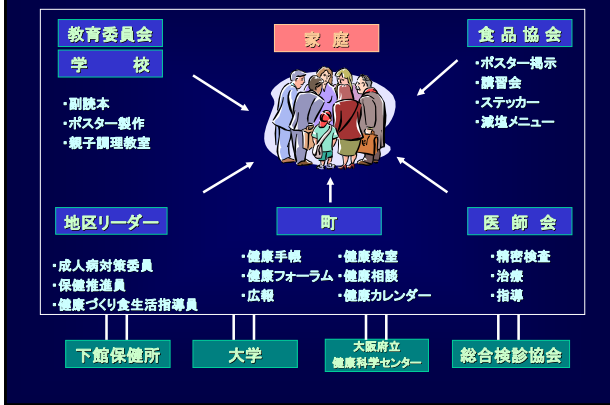


茨城県協和町における予防対策

ハイリスクアプローチにポピュレーションアプローチを組み合わせる

- ・種々のメディアによる減塩、健診受診勧奨
 看板、垂れ幕、ポスター、広報誌、カレンダー
- ・健康まつり、講演会、料理講習会、歩く会等のイベントの開催
- ・学校教育とのタイアップ
 健康副読本、絵
- ・食品協会による食生活改善運動
 減塩メニュー、成分表示

高血圧・脳卒中予防のための組織



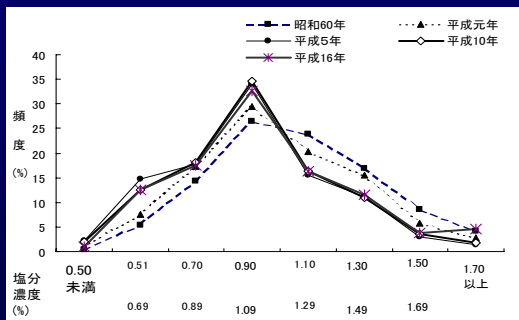
減塩キャンペーン

減塩標語の作成

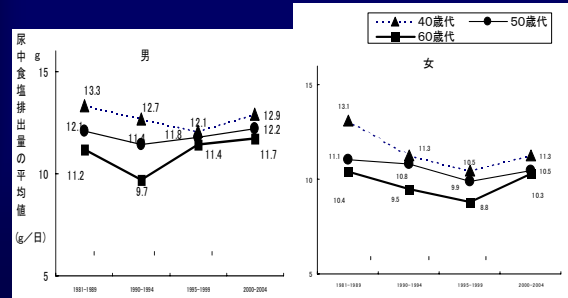
- ・塩かけず手間暇かけて愛情料理
 -豊かな食生活は脳卒中予防の基本です-
- ・打ち破ろう食塩信仰、重労働に塩多くは迷信です
- ・みそ、しょうゆーさじへらして健康家族
- ・初めの一口うすいかな、食べてみればいいかんじ

ポスター(町内、店内)、健康カレンダー(全戸)、立看板(200枚)
 健康手帳(35歳以上)、広報(月1回全戸)、健康まつり(年1回)

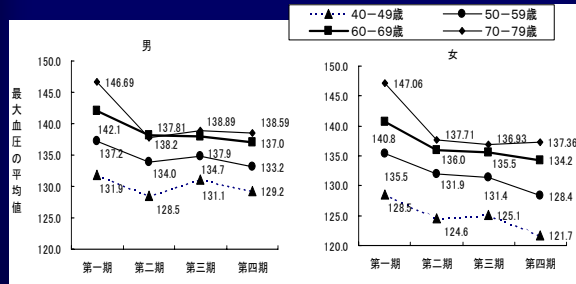
みそ汁塩分濃度の分布の変化



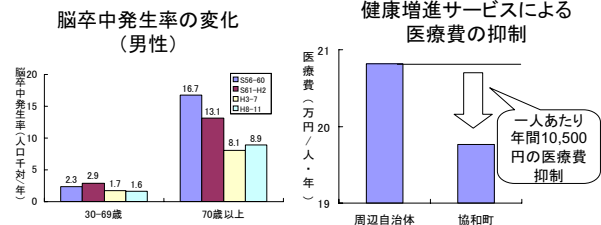
1日の尿中食塩排泄量の変化



最大血圧値の変化



茨城県協和町における脳卒中予防対策の効果



大事な点1

- 2次予防対策を通じて、明らかになった点を1次予防の一貫したテーマとする
住民が地域課題を納得し、行動にうつす際に説得力がある
テーマが地域に長く残るようにする
- まず生活習慣改善ありきの画一的、全体的ポピュレーションアプローチへの疑問

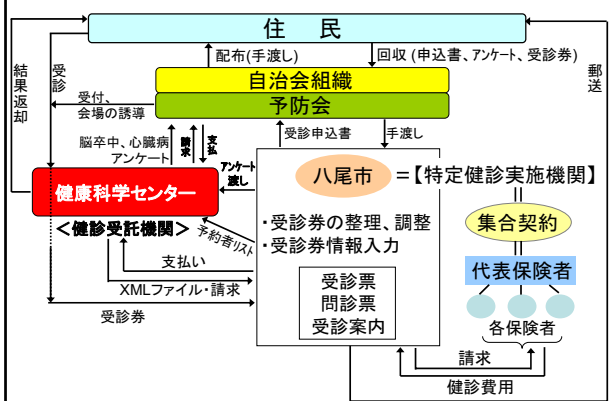
八尾市南高安地区成人病予防会の活動

住民の自助グループが、保健専門職のバックアップのもとで健康づくり活動を継続

- 循環器健診 1月下旬 (集団) ・会報紙発行 年3回
- 結果説明会 3月 (2日間) ・歩く会 11月
- OB会総会 6月 ・OB会料理講習会 年1回
- 盆踊り大会 8月 ・健康科学センターのイベント
- 健康相談 (骨密度測定) 9月 参加 年数回
- 予防会総会 12月 ・生活習慣病の勉強会 年数回

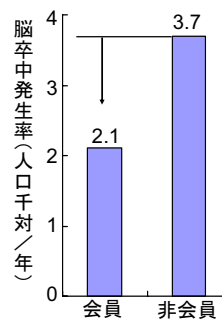
* 核となるのは地区の循環器健診への受診

八尾南高安地区の集団健診の流れ



大阪府八尾市南高安地区における対策の効果

成人予防会員は非会員に比べ脳卒中発生率が低い



差は年間1.6人/1000人。
会員が約5000人いるので、地区で年間8人の脳卒中の発症を予防。

脳卒中では医療費として1人当たり270万円、介護費用に180万円/年。
→年間約3600万円の節約に。

大事な点2

- 住民主体の健康づくり活動が大事
- 個々の活動内容に分けられない、トータルとしての取り組みの成果である
- 健康づくり組織には人と内容の両方で核が必要
 - 人: リーダーとなる人、継続できる体制
 - 内容: 例えば、健診受診を必須条件にする
- 行政、特に保健専門職のバックアップが不可欠。一緒になって進めること

ポピュレーションアプローチは時代の流れに伴い変わる

- 1) 住民活動主体が強調、「新しい公共」
- 2) 地域・職域連携、保険者間連携という概念が必要に
- 3) 健康産業の台頭
健康自己責任の概念の増大
結局は個人の問題、だから個人が気づき、セルフチェックするための全体的アプローチこそが重要..
- 4) 社会経済、生活環境の整備が重要に